次期学習指導要領 教科別まとめ　　小学校 No.04

審議まとめ（2026年10月5日）を小学校の先生向けにまとめ直しました

小学校版

理科

次期学習指導要領で、どう変わる？

小中高を4分野でつなぎ、デマに流されない科学の目を育てる



10秒でいうと　分野をまたぐ課題を学ぶ「理科と日常生活」を新設。内容を物理・化学・生物・地学の4分野で整理

やさしく言うと

小学校の理科は、学習内容を物理・化学・生物・地学の4つの「分野」で整理する方向です。小・中・高で目標もそろえます。ただし、小学校の内容を難しくするものではないと、国が丁寧に周知する必要があるとされています。分野をまたぐ課題を学ぶ「理科と日常生活」を新しく設ける方向です。授業時間に「余白」を生むため、内容の精選も進めます。

小学校はいつから？

全面実施	2030年度（令和12年度）から（見込み）
移行期間	2028～2029年度
告示	2026年度末の予定
教科書	2030年度から新しい教科書（2028年度に検定）

この冊子の中身

1 理科のポイント　4つ
2 主な変更点　6項目
3 現行と次期の比較（新旧対照）　5項目
4 授業時数
5 生成AI・ICTとの付き合い方　2項目
6 今からできる準備チェックリスト　6項目
7 次期を先取りする授業アイデア　1本
8 指導案（試案）　1本
9 現行の学習指導要領・解説（小学校）

無料 原田英語.com 次期学習指導要領ナビ

研修・会議・授業・保護者会での印刷・コピー・配布・投影はご自由にどうぞ。ご連絡は不要です。クレジットは残してください。
審議まとめ（2026年10月5日）準拠・出典ページつき。告示前の方向性で、今後変わることがあります。2026年11月4日 版

サイトで見る

理科の3行要約（全校種）

1. 小・中・高で理科の目標と「見方・考え方」の文言を統一し、学習内容を物理・化学・生物・地学の4分野で整理し直す方向。
2. 中・高に「科学とは何か」や研究倫理を学ぶ「科学ガイダンス」、小学校に分野をまたぐ課題を学ぶ「理科と日常生活」を新しく設けることが適当とされた。
3. 高校は「科学と人間生活（8新単位）」だけで必履修を満たす道を加える案。学習内容は「統合的な理解・総合的な発揮」に必要なものに精選する方向。

1 理科のポイント

4つ

1 新しく「理科と日常生活」

エネルギー問題や環境問題など、一つの分野に収まらない社会の課題が増えています。そこで、これまで学んだことをもとに、分野をまたぐ課題を学ぶ「理科と日常生活」を新しく設ける方向です。社会・職業との関係だけを扱う独立の内容は設けないとされています。 P182 P187

授業では、たとえば 電気・水溶液・植物などの既習事項を使い、「家庭の省エネ」を多面的に考える学習。そんな内容が方向に沿う一例として考えられます。

2 4つの分野で整理（難しくはしない）

今の小学校は「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」の4領域です。次期は、小中高共通で物理・化学・生物・地学の4分野に分ける方向です。今の4領域で育てていた中心の考え方は、別の形で表すとしています。指導方法の違いを否定するものではないとされています。 P183 P186

授業では、たとえば 単元の初めに「これは物理の仲間で、中学校の電流につながる」と子供と確かめる。そんな見通しのもたせ方が考えられます。

3 「科学的な探究」を積み重ねる

小学校から科学的な探究の過程を経験し、中学・高校と積み重ねる方向です。今は校種によって探究の過程の用語が違うことが課題とされています。そこで探究の過程を教育課程全体に位置付け、具体的に示すとしています。学習場面から「特徴を見いだして表現する」ことも共通して示します。 P182 P183 P186

授業では、たとえば 予想→計画→実験→考察の流れを、毎単元同じ言葉で板書し、子供が自分で次の段階を言えるようにする。そんな工夫が一例です。

4

授業時間に「余白」を

理科は、実験の進み具合や再実験で時間を組み替える必要がある教科です。そのため、授業時間に余白を生むことが欠かせないとされています。不可欠でない内容はしぼり、学年間の重なりが大きい部分は整理する方向です。P189

授業では、たとえば 結果がそろわなかった実験を、余白の時間で条件を変えてもう一度やってみる。そんな時間の使い方が考えられます。

2 主な変更点

6項目

1. 小 小学校に分野横断の学習内容「理科と日常生活」を新設する方向

エネルギー問題や環境問題のように、一つの分野だけでは扱えない社会の課題が増えているため、小学校でも、それまでに学んだことをもとに分野をまたぐ課題を学ぶ内容「理科と日常生活」を新しく設けることが適当とされた。ただし社会や職業との関係だけを扱う独立した内容は小学校には設けず、各単元の中での指導を充実させることが期待されている。P183 P187

2. 学習内容の見直し・精選で授業時間に「余白」をつくる

理科は実験のやり直しなどで時間を組み替えることが多いため、時間の余白が不可欠とされた。「統合的な理解」「総合的な発揮」に欠かせない内容を中心に並べ、必ずしも必要でない内容や、学年・学校種の間で重なりが大きい内容は整理する方向である。教科書についても、必ず扱う内容か必要に応じて扱う内容かが分かる工夫を教科書会社に求めることが考えられている。P189

3. 小・中・高の学習内容を4つの「分野」（物理・化学・生物・地学）で統一

学校段階のつながりや学問の筋道を分かりやすくするため、小・中・高で共通して4分野に分けて内容を整理することが適当とされた。さらに各分野を3つ程度の「区分」に分け、区分ごと・学校種ごとに「統合的な理解・総合的な発揮」を示す方向である。小学校の内容が難しくなるわけではないことは、国が丁寧に知らせるとしている。P183 P186

4. 目標と「見方・考え方」を小中高で統一し、社会の情報も対象に

教科の目標の文言を小・中・高でそろえる方向である。「見方・考え方」は、デマやフェイクニュースが広がる時代を踏まえ、メディアリテラシーや批判的思考を意識したものにし、対象を「自然の事物・現象」から「自然や社会の事象・言説」へ広げる案である。また「科学的な視点」は「自然科学的な視点」と言い換え、人文・社会科学との違いをはっきりさせるとしている。P183 P185

5. 「科学的な探究」の過程を教育課程全体に位置付け、用語もそろえる

今は学校種によって探究の過程の用語などが違い、教科として統一されていないという課題がある。そこで「科学的な探究」の過程を小中高を通して位置付け、解説などで具体的に示すべきとされた。資料編の案では、授業で「課題」を「問い」、「仮説」を「予想」などと言い換えることは妨げないとしている。P182 P183

6. 表形式化は「並列パターン」、「統合的な理解」は平易に示す

理科は知識・技能の積み上がりがはっきりしているので、知識・技能と思考力などを並べて示す「並列パターン」で整理する方向である。「統合的な理解」は、個々の知識をどんな大きな理解に結び付けるかを先生がイメージできるよう、高校も含めできるだけ平易に示すとしている。「総合的な発揮」は、どの区分でも「特徴を見いだして表現する」ことを共通で示し、毎日の授業で科学の考え方を実践できるようにするとしている。P186

3 現行と次期の比較（新旧対照）

5項目

黄色のマーカー＝次期で新しく入る・強く打ち出される言葉　~~取り消し線~~＝現行から消える・言い方が変わる言葉

項目	現行	次期（審議まとめの方向）
教科の目標（柱書）	小学校は「問題を科学的に解決するために必要な資質・能力」、中・高は「科学的に探究するために必要な資質・能力」など、学校段階ごとに文言が少しずつ違う。	基本の方向は変えずに、小・中・高で同じ文言に統一する方向（到達の目安は解説で学校段階ごとに説明）。P185

項目	現行	次期（審議まとめの方向）
目標の「学びに向かう力」で育てたい心情	「自然を愛する心情」などは小学校理科だけに書かれている。	小・中・高共通で「**生命を尊重する心情**や**人と自然環境の調和に寄与しようとする心情**」と示す案。P185
見方・考え方	「（身近な）自然の事物・現象」を「科学的な視点」で捉え、比較したり関係付けたりする方法で考える（小は問題解決、中高は科学的に探究する方法）。	「**自然や社会の事象・言説**」を「**自然科学的な視点**」から捉え、観察・実験の結果や科学的知見に基づいて客観的・論理的・批判的に考える、と小中高で統一する案。P183 P185
学習内容の分け方	中学校は第1分野・第2分野、内容は「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」の4領域で整理されている。	小・中・高共通で**4つの「分野」（物理・化学・生物・地学）**に分け、各分野をさらに3つ程度の「**区分**」にする方向。4領域で育てていた中心の考えは「統合的な理解・総合的な発揮」で表す考え方。P186
探究の過程の用語	学校種によって探究の過程の用語などが違う（小学校は「問題解決の過程」で「問題の設定」「予想や仮説の設定」など）。	「**科学的な探究**」の過程として小中高で**用語をそろえる**方向（例：「課題の設定」「仮説の設定」「検証計画の立案」「考察・結論」「表現・伝達」）。言い換えは妨げない。P182 P183

4 授業時数

高校：新しい単位計算（1新単位＝50分×17コマ、P46）で、科学と人間生活4 or 8、各基礎4、各「〇〇」8新単位（現行は2・2・4単位、P82）。組替えのしくみで例：物理基礎＋物理 現行6単位→5～6単位、基礎4科目 現行8単位→6～8単位（細分化しない場合、P190）。小・中：理科の節に具体的な時数の記載はない。総論では、情報の新教科・領域の時数を生むため、小学校3年以上の教科等（35コマ以下のものを除く）から一律3-4%程度を「広く薄く」減らす考え方を示し、実数は今後示すとしている（P79）。理科は調整授業時数の対象教科でもある（P190）。科学ガイダンスは総授業時数を増やさないことが前提（P187）。

5 生成AI・ICTとの付き合い方

2項目

1. 生成AIとデマ・フェイクニュースの時代の科学的な素養

生成AIの発展もあって、非科学的なデマやフェイクニュースがSNSなどで急速に広がっています。だからこそ全ての人に科学的な素養を身に付けさせる理科教育の重要性が高まっており、科学的に探究する従来の「見方・考え方」は引き続き適切だとされています。P183 P185

2. ICT活用例に「生成AIを適切かつ効果的に利用する」

理科のICT活用は学校や地域で差が大きいので、デジタルとアナログの適切な組み合わせを含む効果的な事例を、国が改訂を待たず広く知らせます。例として、データの記録・蓄積、シミュレーション、センサー、AR/VR、生成AIの適切かつ効果的な利用、ポートフォリオなどが挙がっています。P191

6 今からできる準備チェックリスト

6項目

- [ ] 今すぐ 小中（または中高）で、探究の過程を表す言葉（問題と課題、予想と仮説、計画、考察、結論など）の使い方の違いを一覧にし、ワークシートや掲示の言葉をそろえる準備をします。P182 P183
- [ ] 今すぐ デマや誇大広告、ニュースの中の科学的な主張など、「自然や社会の事象・言説」として授業で検証できる題材を集めておきます。実在の商品や個人を攻撃しない形に作り替えて使います。P183 P185
- [ ] 今すぐ 観察・実験の器具や実験計測用センサーの整備状況を点検し、理科教育設備整備費等補助金の対象を確かめて、更新の計画を立てます。P182 P192

- [ ] 告示まで 小学校の高学年では、電気・燃焼・生物と環境など、別々の単元で学んだことをつないで身近な課題を考える活動を単元末に1回入れ、「理科と日常生活」の先取りを試します。P184 P187
- [ ] 告示まで 現行の学習指導要領・解説に照らして必須事項を確認したうえで、発展資料や例示の扱いを見直し、再実験などに使える時間の余白を単元計画の中で検討します。次期課程での正式な区分は、告示・解説・教師用指導書の公表後に反映します。P189
- [ ] 全面実施まで 小中（または中高）の先生で合同の研究授業や教材研究を行い、学校種をまたいだ学習内容のつながりを確かめます。調整授業時数の「研究・研修等枠」の活用例にもあがっている取組です。P182 P190

7 次期を先取りする授業アイデア

1本

小6　1単位時間（45分）

既習を総動員！教室の電気を減らす作戦会議

電気・燃焼・生物と環境の学習をつないで、分野をまたぐ身近な課題を考えます。

手順・ワークシート

ねらい

電気の利用、燃焼の仕組み、生物と環境で学んだことを関係付けて、教室の電気を減らすことが環境とどのようにつながるかを説明し、根拠をもった提案をつくることができる。

流れ

- 5分 教室の写真カードを見せ、「この教室で電気を使っているものはいくつある？」と問い、子供が見つけたものを板書します。
- 8分 ふり返りカード3枚を配り、ペアで「電気」「燃える」「環境」の学習で分かったことを確かめます。手回し発電機で豆電球と発光ダイオードを光らせ、手ごたえの違いを体験して思い出します。
- 7分 「教室の電気を減らすことは、環境とどうつながる？」と問い、3つの学習をつなぐ図（電気を使う→発電所で燃料を燃やす→二酸化炭素ができる→空気を通した生物と環境の関わり）を班でかきます。多くの発電所で燃料を燃やして電気をつくっていることは、教科書などの資料で確かめます。
- 15分 班で「電気を減らす作戦」を1つ選び、提案シートに書きます。理由には、どの学習とつながるかを必ず入れます（例：「人がいないときはセンサーで消す（電気の利用）」「発光ダイオードの照明にする（電気の利用）」「燃料を燃やす量が減る（燃焼の仕組み・生物と環境）」）。
- 7分 班ごとに30秒で提案を発表し、聞き手は「どの学習とつながっているか」を確かめて一言感想を伝えます。
- 3分 振り返りとして、「理科で別々に学んだことがつながった」と感じたところを書きます。

評価

【思考・判断・表現】複数の単元で学んだことを関係付けて、電気の使い方と環境とのつながりを説明しているかを、つなぐ図と提案シートで見取ります。【主体的に学習に取り組む態度】学んだことを生活に生かそうとしているかを見ます。科学的な根拠と、生活の工夫や気持ち（「もったいない」）とを区別して書けているかも確かめます。

8 指導案（試案）

1本

小学校第6学年　理科　全10時間（本時は第6時）

電気をつくって、ためて、上手に使おう ～「LEDは長持ち」をたしかめよう～

中教審の審議まとめ（2026年10月5日）で示された、理科の「見方・考え方」の対象を「自然や社会の事象・言説」に広げ、観察・実験の結果などに基づいて客観的、論理的、批判的に考察するという方向と、「科学的な探究」の過程を小・中・高を通して位置付ける方向を先取りした試案である。次期学習指導要領はまだ告示…

指導案の全文

本時のねらい

同じ量の電気で豆電球と発光ダイオードが光る時間を、条件をそろえて比べ、実験の結果を基に電気の利用について考えをまとめ、「LED電球は長持ち」という表示から言えることを説明する。

本時の流れ

- **5分** 導入 前時に立てた問題・予想・実験の計画を確かめる。売り場の表示「LED電球は長持ち」をもう一度見て、本時で確かめることをはっきりさせる。
- **15分** 展開 班（3～4人）で、手回し発電機でコンデンサーに電気をため、豆電球と発光ダイオードにそれぞれつないで、明かりが消えるまでの時間をストップウォッチで測る。それぞれ3回ずつ測る。
- **5分** 展開 班の結果をクラウド上の共有表に入力し、学級全体の結果を見て、豆電球と発光ダイオードの光った時間を比べる。
- **12分** 展開 結果を基に、個人で考察をノートに書いた後、班・全体で話し合う。同じ量の電気で長く光ったのはどちらか、そこから何が言えるかを考える。
- **8分** まとめ 結論を全体でまとめ、売り場の表示の言葉を、実験の結果を根拠に自分の言葉で言い直す。ふり返りを書く。

PDF版：shidoan-sho6-rika-denki-led.pdf（ダウンロードコーナー）

9 現行の学習指導要領・解説（小学校）

PDF **小学校学習指導要領（平成29年告示）（本文）**
https://www.mext.go.jp/content/20230120-mxt_kyoiku02-100002604_01.pdf

PDF **小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 理科編**
https://www.mext.go.jp/content/20211020-mxt_kyoiku02-100002607_05.pdf

文部科学省の公式PDFです（クリックで開けます）。

ご利用について

- **研修・会議・授業・保護者会での印刷・コピー・配布・投影はご自由にどうぞ。ご連絡は不要です。**
  （校内研修・教育委員会の研修・教員養成の授業・学年会・PTAなど）
- クレジット「原田英語.com 次期学習指導要領ナビ」
  （https://www.haradaeigo.com/jikigakushushido/）はそのまま残してください。
  各ページの下に入っています。
- 中身は中央教育審議会 教育課程部会「次期学習指導要領等に向けた審議まとめ」（2026年10月5日）ほか文部科学省の資料をもとに、原田英語.comが要約したものです。**告示前の方向性**で、答申・告示で変わることがあります。（仮称）の名前も今後変わる可能性があります。
- 文中の P〇 は審議まとめ本体（PDF）のページ、**資料編（1）～（3）P〇** は第3部 資料編（PDF）のページです（PDFのページ番号。印刷されたページ番号とは1つずれることがあります）。PDFで見ているときはクリックで原文が開きます。
- 授業アイデア・指導案は、審議まとめの方向性をふまえた原田英語.comのオリジナルの試案です。
- 最新の情報・ほかのPDFはサイトで：
  https://www.haradaeigo.com/jikigakushushido/download/（2026年11月4日 版）

サイトで最新版を見る